



御殿場市学校教育課グランドデザイン

平成 28 年度 御殿場市教育委員会学校教育課

基本目標

人間力と社会力を核とする心の教育を基本に、確かな学力の定着を図り、安心安全で魅力ある教育を推進する。

重点目標

豊かな感性

★価値ある体験、人との出会い、郷土の良さを学ぶことを通して「誠実さ」「やる気」「思いやり」を身に付け、言葉や態度で表すことのできる子

気持ちのよい挨拶ができる 90%

進んでありがとうと言える 93%

目標に向かって努力する 90%

確かな知性

★学ぶ意欲をもち、基礎・基本を身に付け、学び合い、よく考え、それを表現できる子

学び合う経験ができた……80%

授業がわかる……90%

思いや主張を文章に表す 80%

健やかな心身

★元気に登校、楽しく生活し、友達と自分を大切にできる子

学校が楽しい……95%

信頼できる先生……90%

不登校出現率……1%以下

目標達成のための取組

あいさつ+「ありがとう」活動の展開

・市内生徒指導における教師の努力目標設定

特別支援教育の推進

- ・通常の学級における特別支援教育の充実
- ・個のニーズに応じた教育の質の向上
- ・特別支援学級における教育課程の共有・理解
- ・特別支援教育コーディネーターを核にした校内支援体制の充実と就学支援の早期対応
- ・校種間及び関係機関との連携
- ・巡回指導員との積極的な連携・活用
- ・特別支援学校との連携・協力

人権教育の推進

- ・人権教育指導資料の活用
- ・自他の大切さを実感できる学校環境の整備

道徳教育の推進、道徳授業の充実

- ・道徳教育推進教師の積極的活用
- ・心の教育副読本「ふじさんのように」の活用

キャリア教育の推進

- ・夢創造事業のより一層の活用

読書活動の推進

- ・読書量の確保と、読書の質の向上
- ・図書館経営の充実、図書館補助者の活用
- ・学校図書館運営協議会(年2回)の設定と活用

保護者・地域との信頼関係の構築

- 地域に開かれた学校
 - ・オープンスクール、学校だより、HP 等による積極的な情報発信
- 子どもの育ちを学校と家庭の両面から支える
 - ・社会におけるモラルやマナーの内面化(パートナーシップとしての参画の意識化)
- 地域と連携した「命を守る教育」の推進

学習指導要領の目標や内容の確実な押さえ

- ・身に付けさせたい力を明確にした授業づくり
- 自分の思いや主張を堂々と表現する子どもの育成
 - ・作文や手紙、発表の形で書いたり話したりする場の意図的な設定

これまでの授業づくりを基盤とした授業改善

- ・授業改善の3つの視点を押さえ、基礎・基本の確実な定着
- ・ICTの活用 情報モラル教育の推進
- ・35人学級でのより効果的な指導方法の工夫と補助者の有効活用

小学校外国語活動と中学校英語教育の充実

- ・ALTの効果的な活用

理数教育の充実

全国学力・学習状況調査の有効活用

- ・学力向上委員会の設置
- ・調査問題及び質問紙の分析と結果の活用

積極的な生徒指導の展開

- ・心の居場所づくり(学校・学級)
- 教育相談体制の充実
 - ・市 SSW、学校教育相談員、市教育相談員、SC 等との積極的な連携・活用
- 組織として機能する生徒指導
 - ・子育て支援課、民生児童委員等、その他関係機関との連携(ケース会議の活用)

運動習慣の定着

- ・運動時間の確保、体力づくりの充実

責任を持って働く場づくり

- ・清掃や係活動、奉仕活動等の充実

健康教育の推進

- ・食育、性教育の推進や生活習慣の確立

学校保健安全委員会の充実

学校専門医制度の活用実施

冊子『育ちゆく子ら』の活用

教職員の資質向上

- 教育指導センターの充実と効果的な運営
- 市の研究指定校を核とした研究推進と自主的な研究発表会への支援
- 指導主事の積極的な派遣による校内研修の活性化
- 子ども理解に基づく授業づくりへの支援
- キャリアに応じた研修の充実
 - ・御殿場市教育フォーラムの実施
 - ・希望参加型伝承研修会(架け橋)の実施
 - ・教育研究論文への計画的な応募
- 組織の活性化と学校経営の安定性のバランス確保
- 教職員一人一人の経営力、マネジメント力の養成
- 先輩教員からの学び

幼小中連携・一貫教育の推進

- 中学校区を単位として、育ちの目標(15歳義務教育終了時の姿)を描き、12か年の成長のイメージを共有する
- 連携・一貫の縦糸となる重点的な目標と取組を明確にし、特色ある教育課程を編成
- 教職員、幼児、児童生徒の積極的な交流
- 自己評価、学校関係者評価を活用した教育課程の改善と組織力の向上
- 家庭や地域との連携を密にした取組の充実